

Title	向性検査に於ける「はい」「いゝえ」の示す向性度についての一研究
Sub Title	On the intersity of response in Awaji-Okabe introversion-extroversion test
Author	佐野, 勝男(Sano, Katsuo) 秋山, 誠一郎(Akiyama, Seiichiro)
Publisher	三田哲學會
Publication year	1952
Jtitle	哲學 No.28 (1952. 3) ,p.159- 183
JaLC DOI	
Abstract	Awaji-Okabe Introversion-Extroversion Test comprises fifty question, to each of which the subject is required to respond either affirmatively ("yes") or negatively ("no"). It is generally assumed that these responses are of equal intensity, i.e., they indicate the same degree of introversion or extroversion and accordingly they are weighted equally in the final score. However, there seems to be no *valid ground for making such an assumption. The realtions to thse questions may indicate varying degress of introversion and extraversion. It would be more nearly the "truth to suppose that an affirmative or a negative response indicates a measurable position on the continuum that extends from the extreme introversion at one end to the extreme extroversion at the other. In order to examine the validity of this contention, the writer conducted Awaji-Okabe Test (in which thirty out of the original fifty questions were used) on 439 college students including 214 men and 225 women. Applying Thurstone's method of equal appearing intervals to the results of this test, the I-E scales were constructed for men and woment separately. It was found that items near the extremes on one scale were near the center on the other and vice versa. For example, the item 6 (Do you always feel gloomy?) indicated the extreme introversion when the reply was affirmative but it indicated only slight extroversion, when the reply was negative. This fact appears to justify the writers's contention. Using two sets of weight for "yes" and "no" responses, the score was calculated. The men's mean score was 96. 30 and the women's 88. 28. The mean score for the male subjects who were diagnosed as psychastheriia was 74. 65 while that of the female subjects diagnased as psychasthenia was 68, 97. The discrepancy between the theoretical and the experimental scale values was 15 percent of the total range of scale values. The items in this test did not lie on a single linear scale.
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000028-0159

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

向性検査に於ける「はい」「いゝえ」の 示す向性度についての一研究

佐野勝男
秋山誠一郎

I 問 題

淡路田治郎・岡部弥太郎両氏の「向性検査」は一九三二年公けにされて以来今日に至る迄広く行われて居る¹。その後田中寛一氏²、榊原清氏³、及び淡路田治郎氏⁴単独の改訂案等種々なる改良が試みられて居るが、得点の与え方は淡路・岡部両氏の一九三二年に発表された方法が踏襲されている。

即ち両氏の「向性検査」は五〇の問題より成り、外向性の問題二五問、内向性の問題二五問を含んで居り、それらに「はい」「いゝえ」をもつて答えるようになってゐる。点の与え方は五〇の問題に「外向的」に答えれば一点の外向点を、「内向的」に答えれば一点の内向点を与えるようになってゐる。

しかし外向性の問題に「はい」と答えたから一点の外向点を等しく与えるということは、問題の内容を考えれば必ずしも適當ではないように思われる。ある問題に「はい」と「外向的」に答えた場合、非常な「外向度」^(註1)を示すこと

もありうるし、又問題によつては少ししか「外向度」を示さないこともありうると思われる。「内向度」についても同様のことが云いうる。更に「外向性」の問題に「はい」と答えれば「外向性」を示すと診断し、これに「いゝえ」と答えれば「内向性」を示すと診断されるのであるから、同一基準による「尺度」により「はい」といつた場合示す「向性度^{註2)}」を測定し、更に「いゝえ」といつた場合示す「向性度」を測定すれば両者を比較することが出来る。この方法によれば、ある問題は「はい」といつた時非常な「外向度」を示すが、「いゝえ」といつた時は少ししか「内向度」を示さないという問題も見出すことが出来る。更に「向性度」を男女別に測定すれば、男子に於てはある問題に「はい」と答えた時は非常な「内向度」を示すが、女子に於ては同様に答えても少ししか「内向度」を示さない問題をも見出しうるように思われる。それ故「はい」「いゝえ」の示す「向性度」が夫々異なるものであれば、その示す「程度」に応じて夫々適当な「重み」をかける方がより妥当的と思われる。この点に着目した J. P. Guilford⁵⁾ の方法を淡路・岡部両氏の「向性検査」に適用し、「はい」「いゝえ」の示す「向性度」を測定せんとした。

II 方 法

1. 各問題の信頼度の測定

先づ五〇の問題がどの程度の信頼度をもっているかを検討した。用いた被験者は慶大経済学部一年一二一名及び東京女子大、日本女子大合わせて二二五名である。これら被験者に一週間の間隔^{註3)}において淡路・岡部両氏の「向性検査」を二度施行し、式(1)によつて信頼度 P を計算した。^{5, 6)}

$$\text{式(1)} \quad p_i = n_{12} / \sqrt{n_1 n_2}$$

n_1 ... 同性検査を最初に行つたときの問題1の選択の総数

n_2 ... 同性検査を二度目に行つたときの問題1の選択の総数

n_3 ... 問題1を1,2回とも選択した総数

p_1 ... 信頼度 ($0 \leq p \leq 1$)

五〇の問題の「はい」及び「いいえ」の信頼度 p は附表 I II III IV の右欄に示されている如くである。この結果によれば信頼度は予想以上に高く、男女とも平均〇・八一五を示した。「はい」「いいえ」の両方を含めての一〇〇個の信頼度の中、〇・七以下を示したものは男子に於て八個、女子に於ては四箇に過ぎなかつた。一般に選択される数の多い問題は信頼度が高く現われている。

2. 問題の選択

五〇の問題全てをもつて尺度を構成する時、誤差が大になることも考えられるので、この中から信頼度が比較的高く、しかも診断的価値が高いと思われる問題を選択するようにつとめた。診断的価値の高い意見は「はい」と「いいえ」に各々五〇%づつ答えている問題よりは、^(註4)「はい」と「いいえ」の選択数が一方に片寄つて居り、しかも各々の信頼度の高い問題の方が「重み」をかけた時により有効であろうと考える、この基準に適合する問題を多く選択しようと試みたが一義的にはゆかなかつた。

今「はい」を選択した数を基準として各問題の選択数の不均等性を示せば表 I (男) の如くに分布している。この

表 I 「はい」を基準とした選択数の分布

男子 121 名中 (慶大経一年) 「はい」と答へた人数	問題の番號 (淡路、岡部向性検査の問題番號)	Σ
109 — 100	28,	1
99 — 90	④,	1
89 — 80	1, ①⑦, 21, ③⑤, 37	5
79 — 70	④, ⑤, ②②, ②⑥, ④③, ④⑧	6
69 — 60	③, ⑦, ①①, ①②, 31, ③②, 38, 49	8
59 — 50	8, 10, 13, ④④, 18, 19, ②⑦, 30, 41, ④⑥, 50	11
49 — 40	②, 9, ①⑤, ②⑦, 36, ④④, ④⑤, ④⑦,	8
39 — 30	23, ②④, 25, 29, ③⑨, ④②	6
29 — 20	⑥, ①⑥, ③④	3
19 — 10	③③	1
		50

○印で囲んだものは最後迄問題とした質問番號

分布により男女別に累加曲線を描き、七五パーセントタイル以上、二五パーセントタイル以下に入る問題中より多くの問題を選択しようとした。更に男女の選択数を七五パーセントタイル以上、七四パーセントタイルより二六パーセントタイル迄、及び二五パーセントタイル以下の三つに分類して、男女の選択数の一致をみると、五〇問中四〇問迄は一致している。男女の相違を示す残り一〇問中より比較的男女差の大きい五問題を選択してみた。

以上信頼度、選択数の不均等性、男女による選択数の差、無応答数、更に問題の内容を考慮し、五〇問中より三〇問を選び、これらに「重み」をかけることにした。選んだ三〇問は内向性の問題一八問、外向性の問題十二問を含んで居り、これらは表 I に於て○で囲んだものである。

3. 尺度構成

— 尺度値の決定 —

三〇の問題の「はい」と「いいえ」の各系列によつて、各々

一つの尺度を構成するものと考え、(前者を「はい尺度」後者を「いゝえ尺度」とよぶことにする) L. L. Thurstone の同時選択を手がかりとする尺度構成法 (等現間隔法 Method of Equal Appearing Intervals) により、各問題の「はい尺度」、「いゝえ尺度」に於ける尺度値を決定し、更にこの尺度値に応じて夫々の「重み」をかけることを試みた。

もし各問題の「はい」の示す「向性度」が全て等しければ、「はい尺度」上に於ける各問題の尺度値は等しく現われる筈であり、又「いゝえ」の示す「向性度」が等しければ、「いゝえ尺度」上の尺度値は全て等しく現われる筈である。更に各問題の「はい」と「いゝえ」の示す「向性度」が等しければ、「はい尺度」上の尺度値と「いゝえ尺度」上の尺度値は反対の方向に等しく現われる筈である。

「はい尺度」の同時選択表をつくり、(附表 I—IV 迄に男女別「はい尺度」「いゝえ尺度」の同時選択数が表示されてゐる) この表より各問題間の類似系数 ϕ を式(2)によつて計算した。

$$\text{式(2)} \quad \phi_{12} = \frac{n_{12}}{\sqrt{p_1 p_2 n_1 n_2}}$$

ϕ_{12} ... 問題 1 と問題 2 の類似系数

p_1 ... 問題 1 の信頼度
 p_2 ... 問題 2 の信頼度
 } 式(1)によつて計算。

n_1 ... 問題 1 を選択した被験者の総数

n_2 ... 問題 2 を選択した被験者の総数

向性検査に於ける「はい」「いゝえ」の示す向性度についての一研究

$n_{12} \dots$ 問題1, 問題2を同時に選択した被験者の総数

更に類似系数 ϕ を式(3)によつて、尺度に換算し、各問題の尺度値を決定した。

$$\text{式(3)} \quad \phi_{12} = \frac{1}{\sqrt{2\pi} \sigma} e^{-\frac{(s_1 - s_2)^2}{2\sigma^2}}$$

$(s_1 - s_2)$ は問題1と問題2の尺度上の分離

以上の手続きを「はいえ尺度」にも適用し、各問題の尺度値を決定した。この尺度値の原点を -1.59 に移し、 $1/20$ の単位により尺度を切つて「重み」をかけた。「はい尺度」を基準とした時の男女別に於ける各問題の「尺度値」及び「重み」は表IIに示されている。

III 結 果

一、各問の示した尺度値の考察

「はい尺度」に於ては三〇問中一八問は内向性を示す問題であるが、男子に於てはこの十八問の尺度値は -1.30 より $+1.96$ に亘つて居り、女子に於ては -1.47 より $+1.16$ に亘つて居る。「重み」に於ては共に一より四迄に分散している。それ故「はい」と答えたからといつても夫々の示す内向度は異つて居る。

三〇問中残り一二問は外向性を示す問題であるが、その尺度値は男子に於ては $+2.36$ より $+1.29$ に亘つて居

表 II 各問題の尺度値及び「重み」

問 題	はい 尺度				いいえ 尺度			
	男		女		男		女	
	尺度値	重み	尺度値	重み	尺度値	重み	尺度値	重み
△33. 他人の評判がしたいですか	-1.30	1	-1.47	1	- .11	3	- .12	3
※△ 6. 陰気ですか	-1.18	1	-1.29	1	+ .23	4	+ .10	4
※△42. 恨が忘れられないですか	-1.06	1	+ .01	4	- .08	3	- .12	3
16. 議論が過激に走りやすいですか	-1.00	1	-1.03	1	- .07	3	- .09	3
※45. 友達を作るのに骨が折れますか	- .89	2	-1.16	1	+ .28	4	+ .20	4
14. 辛棒強いですか	- .73	2	- .20	3	+1.05	6	+1.38	6
47. 人目につく所ではいつも引込んでいますか	- .65	2	- .63	2	+ .49	4	+ .43	4
39. 隠し立てをしますか	- .58	2	- .79	2	+ .12	4	- .04	3
※27. 気むづかしやですか	- .53	2	- .88	2	+ .10	4	+ .16	4
※15. 理窟つばいですか	- .43	3	- .50	2	+ .18	4	+ .23	4
44. 独りぼつちでいるのが好きですか	- .34	3	- .67	2	+ .38	4	+ .69	5
△ 7. 失敗にこりますか	- .22	3	- .34	3	+ .65	5	+ .58	5
3. 大事をとつて実行に暇どりますか	- .16	3	- .28	3	+ .79	5	+ .46	4
※32. 自分の評判が気にかかりますか	- .11	3	- .04	3	+ .51	5	+ .48	4
43. はにかみやですか	- .02	3	- .46	3	+ .96	5	+ .74	5
※△17. 用心深いですか	+ .01	4	- .16	3	+1.42	6	+1.18	6
35. 人から指図されるのが厭ですか	+ .08	4	+ .11	4	+ .84	5	+1.01	6
22. 空想家ですか	+ .19	4	- .06	3	+1.10	6	+ .92	5
40. 他人にすぐに同情しますか	+ .23	4	+ .24	4	-1.45	1	-1.30	1
4. 決心をあとから変へることが出来ますか	+ .38	4	+ .36	4	- .80	2	-1.15	1
※26. 話しずきですか	+ .45	4	+ .55	5	- .82	2	- .86	2
※△12. 気がかわりやすいですか	+ .46	4	+ .56	5	- .48	3	- .41	3
※11. よくはしやぎますか	+ .55	5	+ .86	5	- .66	2	- .61	2
※△48. 意見の違ふ人とでも気軽につきあつて行けますか	+ .67	5	+ .46	4	-1.21	1	- .97	2
20. 派手な仕事がすきですか	+ .84	5	+1.04	6	- .91	2	- .46	3
※ 5. 思案するよりは活動する方が好きですか	+ .88	5	+1.92	5	-1.05	1	- .76	2
2. すぐに決心がつきますか	+ .88	5	+1.22	6	- .34	3	- .34	3
※46. 人前で平気で話せますか	+1.00	5	+ .79	5	- .69	2	- .72	2
※△24. 持物をなげやりにしますか	+1.22	6	+1.35	6	- .26	3	- .25	3
34. 自分のことが他人にまかせられますか	+1.29	6	+1.50	7	- .20	3	- .39	3

※男子学生と男子「精神衰弱患者」の各問の選択数の差が $p < .01$ で有意と云えるもの
 △女子学生と女子「精神衰弱患者」の各問の選択数の差が $p < .01$ で有意と云えるもの

り、女子に於ては +24.6 より +150.6 に亘つてゐる。「重さ」は男子に於ては四より六に分散して居り、女子に於ては四より七に分散している。それ故「はい」と答えたからといつても等しい「外向度」を示していない。以上のことは「いゝえ」尺度に於ても同様に見られる。

「はい尺度」上に於て最も高い「内向度」を示す問題は男女とも三三番「他人の評判がしたいですか」(男 -130.6 女 -147.6)であり、二番目に高い「内向度」を示す問題は男女とも六番「陰気ですか」(男 -118.6 女 -129.6)である。これに反し最も高い「外向度」を示す問題は男女とも三四番「自分のことが他人にまかせられますか」(男 +129.6 女 +150.6)であり、二番目に高い「外向度」を示す問題は男女とも二四番「持物をなげやりにしますか」(男 +122.6 女 +135.6)である。この両極の問題間に他の問題が排列されている。

「いゝえ尺度」上に於て最も高い「内向度」を示す問題は男女とも四〇番「自分にすぐ同情しますか」を否定した時であり、(男 -145.6 女 -130.6) 二番目に高い「内向度」を示す問題は、男子に於ては四八番「意見のちがう人とても気軽につき合つてゆけますか」を否定した時であり (-121.6)、女子に於ては四番「決心をあとから変えることが出来ますか」を否定した時である (-115.6)。これに反し最も高い「外向度」を示す問題は、男子に於ては一七番「用心深いですか」を否定した時であり (+142.6)、女子に於ては四番「辛棒強いですか」を否定した時である (+138.6)。二番目に高い「外向度」を示す問題は、男子に於ては二二番「空想家ですか」を否定した時であり (+110.6)、女子に於ては、男子に於て最も高い「外向度」を示した一七番「用心深いですか」(男 +142.6 女 +118.6)を否定した時である。他の問題はこの両極の問題間に排列されている。

更に各問題の「はい尺度」上に於ける「向性度」と「いゝえ尺度」上に於ける「向性度」が略々正反対の方向に等

しく現われている問題を「重み」によつてみれば、三〇問題の中、男子に於ては六問題（問題番号一一、一二、一五、二〇、四四、四六、）であり、女子に於ては八問題（問題番号三、五、一一、二六、三三、四二、四四、四六、）であり、一部男女の間に共通する問題がみられる。他の問題は多かれ少なかれ正反対には現われていない。例へば六番「陰気ですか」は「はい尺度」上に於ては高い「内向度」（男 -118.6 、女 -129.6 ）を男女とも示すが、「いいえ尺度」上に於ては男女ともほんの僅かしか「外向度」（男 $+23.6$ 、女 $+10.6$ ）を示していない。

更に男女に於いて「向性度」に差を示す最も特長的な問題は、「はい尺度」上に於ては四二番「恨みが忘れられないですか」である。この問題に男子が「はい」と答えれば、 -106.9 の非常な「内向度」を示すに拘らず、女子に於ては「はい」と答えても「内向度」を示さず、ほんの僅かではあるが $+01$ の「外向度」示している。即ち男子にとつては「恨が忘れられない」というのは非常な「内向度」を示す一つの特性であるが、女子に於ては「恨が忘れられない」といつても内向、外向どちらへもあまり偏向を示さない特性と考えられる。更に「はい尺度」上に於ける一四番「辛棒強いですか」は男子が「はい」と答えれば -73.9 のかなり高い「内向度」を示すが、女子がこれに「はい」と答えれば -20.9 のあまり高くない「内向度」を示している。四三番「はにかみやですか」に男子が「はい」と答えれば -02.9 のほんの僅かしか「内向度」を示さないのに反し、女子に於ては -1.69 の大分高い「内向度」を示している。

更に「はい尺度」上に於て 30.9 から 35.9 に互る差を示す問題は、二七番「気むづかしやですか」で「はい」と答えた場合、男 -53.6 、女 -88.9 を示し、女子の方が少しく高い「内向度」を示している。四四番「独りぼつちでいるのが好きですか」は「はい」と答えた場合、男 -34.6 、女 -67.6 を示し、女子の方が少しく高い「内向度」を示している。

示している。——一番「よくはしやぎますか」に「はい」と答えた場合、男 +55.9、女 +88.9 を示し、女子の方が少しく高い「外向度」を示して居り更に二番「すぐ決心がつきますか」に「はい」と答えた場合、男 +88.9、女 +122.6 で女子の方が少しく高い「外向度」を示している。

「いゝえ尺度」上に於ては「はい尺度」上に於ける四二番「恨が忘れられないですか」の如き顯著なものはみられないが、45.6 の差を示す問題は二十番「派手な仕事が好きですか」であり、これを否定した場合は男 -91.6、女 -46.6 であり、男子の方が高い「内向度」を示している。

更に 30.6 より 35.6 に互る間の差を示す問題は十四番「辛棒強いですか」を否定した時であり、男 +105.6、女 +138.9 を示し、女の方が少しく高い「外向度」を示している。三番「大事をとつて実行に暇どりますか」を否定した時、男 +79.6、女 +45.9 を示し、男子の方が少しく高い「外向度」を示して居り、四四番「独りぼちでいるのが好きですか」を否定した時、男 +38.9、女 +69.9 を示し、女子の方が少しく高い「外向度」を示している。四番「決心をあとかから変えることが出来ますか」を否定した時、男 -80.6、女 -115.6 を示し、女子の方が少しく高い「外向度」を示している。これらは男女の性格の差を示す面白い現象であると思われる。

「はゞ尺度」「いゝえ尺度」の discrepancy は男子に於て夫々一八・一%、一五・〇%を示し、女子に於ては夫々一六・〇%、一四・七%を示した。少しく大きいのであるが、この種のテストとしては止むを得ないものではないかと思われる。即ち今迄考えられてきた「内向—外向」の概念はこれをテスト化して一次元的延長にきちんとおのせてしまえる程単一な概念ではなく、もつと包括的な概念であり、更にこれらはいろいろな面に細分化して更にテスト化を

考慮すべきものであることを示していると思われる。

二、重みをかけた採点法による予備的結果

以上の方法により「はい」「いいえ」に「重み」をかけたので、この「重みをかけた採点法」により得点を計算してみた。男子に於てはもし三十問全てに内向的に答えれば六九の点となり、全てに外向的に答えれば一三八の点を得ることとなる。又女子に於ては全てに内向的に答えれば六九の点を、全てに外向的に答えれば一四一の点を得る。無応答は全て除外して点には加えなかつた。この点は充分問題になるのであるが、普通の人は無応答が少いので一応無視することとした。それ故「重みをかけた採点法」による場合は約七〇の開きの間に各人が分散することとなる。「重み」をかけない従来の採点法によれば三〇の間に各人の点が分散する。

用いた被験者は前出の慶大生一二一名を含む二一四名、東京女子大、日本女子大生二二五名及び慶大医学部神経科の外来に於て「精神衰弱」(psychasthenie)と診断されたもの一二一名の初診時に於ける結果である。それは表Ⅲに示される如くである。

女子学生は男子学生より内向的に表われて居り、「精神衰弱患者」は更にそのいづれよりも低く表われて居る。

男子学生及び女子学生の retest による相関係数(男: .72, 女: .77)は一週間の間隔において得られたものであるが、先づかなりの信頼度はあるものと思われる。

更に男子学生、女子学生群を一応正常群と考え、男子学生と男子の「精神衰弱患者」及女子学生と女子の「精神衰弱患者」の間で、各問題の選択数の差を χ^2 にて検定し一%の危険率をもつてその差が有意である問題を検討すれば表

表 Ⅲ 「重みをかけた採点法」による結果

	向性検査の得点			Retestのr	無 応 答 数	
	人 数	M	σ	r	M	σ
慶 大 生 東京女子大、日本女子大	214	96.30	15.41	0.728	3.40	2.84
	225	88.28	16.35	0.779	4.39	3.25
男 子 精 神 衰 弱	83	74.65	22.01	—	7.60	6.49
女 子 精 神 衰 弱	38	68.97	22.81	—	8.75	6.20

Ⅱに示されている如くなる。即ち男女を通じて差のある問題は六番「陰気ですか」四二番「恨が忘れられないですか」十七番「用心深いですか」十二番「気がかり易いですか」四八番「意見の違う人とでも気軽につき合つてゆけますか」二四番「持物をなげやりにしますか」の六問であり、男子間のみで差のある質問は四五番「友達を作るのに骨が折れますか」二七番「気むづかしやですか」一五番「理窟っぽいですか」三三番「自分の評判が気にかゝりますか」二六番「話しすぎですか」十一番「よくはしやぎますか」五番「思案するよりは活動する方が好きですか」四六番「人前で平気で話せますか」の八問である。女子間のみで差のあるものは三三番「他人の評判がしたいですか」七番「失敗にこりますか」の二問で総計十六問が差を示している。差を示す十六問は「内向性」の問題九問、「外向性」の問題七問を含んで居り、一般に「内向—外向尺度」の両極に近い問題が多く選ばれている。

次に「精神衰弱者群」（男女を含む）の得点の累加分布曲線を描き、九十パーセントタイル以上及び十パーセントタイル以下のものを選ぶと、九十パーセントタイル以上に入るものは十四名で「重みをかけた採点法」による得点の平均値は一〇七・五、十パーセントタイル以下に入るものは十三名でその平均得点は二七・四である。この二群について臨床的側面より考察すれば、得点の高い群では平

均年齢三〇・七歳で年齢が多く、主訴は頭痛、肩凝り、頭重感、疲憊感、Impotenz等の身体的症状に関するものが多く、且つ病前性格は山角司氏の「臨床性格診断法」によれば「陽気」「現実的」「社交的」等の循環性の傾向が多く、分裂質のものは極めて少く、癲癇性、ヒステリー性、神経質に關しては次に述べる得点の低い群と大体同様の傾向を示している事が認められる。得点の低い群では平均年齢二七・六歳で得点の高い群より年齢が若く、その主訴は身体的症状に關聯するよりは、記憶減弱、恐怖症、劣等感、強迫思考等の精神症状に關聯するものが多い。又病前性格については「非社交的」「はきはきしない」「孤独を好む」等の分裂質性格と考えられるものが多く、循環性のものはきはめて少い。このような事実から精神衰弱者の向性は單に精神衰弱という疾患状態によつてのみ影響されるのではなく各個人の年齢、病前性格等によつて可成り左右されるものと考えられる。

三、「かくありたい」との性格傾向よりの考察

向性検査を用いて自己の現実の性格傾向をきくと共に「かくありたい」との自己の理想の性格傾向をも同時にきいて居いた。この時の反応傾向は無応答がぐつと少くなり、しかも三十問中二十問近くが「はい」又は「いゝえ」の反応に傾いて居り、残り十問が大体「はい」と「いゝえ」に五十%づゝ答えている。以上の關係を表示すれば表IVの如くである。男女に於て差を示す問題は五番「思案するよりは活動する方が好きですか」であり、男子は八二%かくありたいと答えているに反し、女子は五三%であるに過ぎない。又二十番「派手な仕事が好きですか」は男子が四三%かくありたいと答えているに拘らず、女子に於ては十四%に過ぎない。他の問題は男女とも殆ど同じに選択されている。

表 IV 「かくありたい」性格として反応させた時の
「はい」を規準とした選択数

「はい」と答えた%	男	女
	問 題 番 号	問 題 番 号
90 以上	2, 14, 17, 46, 48	2, 14, 17, 46
89 — 80	5	48
79 — 70	40, 26	
69 — 60		26, 40
59 — 50	22	5
49 — 40	3, 4, 7, 20, 34, 35	3, 4, 7, 22, 35
39 — 30	11, 44	34, 44
29 — 20		11
19 — 10	15, 32, 42, 47	15, 20, 47
9 以下	6, 12, 16, 24, 27, 33, 39, 43, 45	6, 12, 16, 24, 27, 32, 33, 39, 42, 43, 45

四、両採点法の列位相関

上述の被験者より慶大学生百二十一名、女子学生九四名をとり、両者に二つの採点法を施し、両者を得点順に並べ、その得点順位の移動を列位相関により求めた。その結果、男子の ρ は 0.883 を示し、女子の ρ は 0.893 を示した。各問に与えられた「重み」は相殺されてこの結果を生じたものと考えられる。

要 約

一、向性検査の「はい」「いゝえ」の示す向性度に応じて「重み」をかけることを試みた。

二、方法は「等現間隔法」を用いて「はい尺度」「いゝえ尺度」を構成し、各問題を「内向—外向尺度」上に排列した。 $\frac{1}{100}$ の単位により尺度を切り、一より七迄の「重み」をかけた。

三、尺度の誤差は一五%内外を示した。これは「内向—外向」概念の包括的なことを示すと考えられる。

四、女子は男子より内向的に現われて居り精神衰弱患者は正常人より

り遙かに内向的である。

五、一週間を隔による retest の相関係数は男 0.72、女 0.77 を示した。

六、学生群と精神衰弱者の各問の選択数の差を χ^2 にて検定し、1%の危険率により有意なものを求めれば三〇問中一六問が妥当する。

七、「かくありたい」との性格傾向にて各問をみれば三十問中二十問近くは80%以上にかたまり残り十問が五〇%づゝ答えられている。

八、両採点法を列位相関にてみれば男女とも +0.90 を示した。

註(1) 各問に於ける「はい」「いいえ」の応答を二分法 dichotomy だけで処理しようとするのではなく、「はい」という応答の中に含まれる「外向性」又は「内向性」の程度に着目し、これを量的なものとして測定せんとしたものである。従つて此の場合「外向度」という言葉を用いた。

註(2) 「向性度」という言葉は「内向—外向」に互る尺度上に於ける各問の占める位置をさして用いた。従つて「外向度」「内向度」の両方を含む意味に用いてある。

註(3) 「一週間の間隔」は短かすぎるのであるが事情止むを得ずこれを用いた。第二回目の施行に当つては、第一回目はどう書いたかを全然考えずに行うようにとの教示は強調してある。retest の信頼度もこれを用いつゝる。

註(4) 淡路・岡部両氏の「向性検査」の問題選択規準は各問の「はい」「いいえ」に五〇%づゝ答える意見を取り出すように努めて居られる。しかし私の場合は「はい」「いいえ」の示す「向性度」を問題としているので、問題選択の規準が異つてきている。

文 献

- 一、淡路田治郎、岡部弥太郎「向性検査と向性指数」心理学研究七卷一号、三号、八卷三号
- 二、田中寛一「向性検査とその規準」牛島義友、波多野完治編「性格と社会性の検査」昭和二十四年
- 三、礪原清「向性検査の手引」金子書房、昭和二十五年

四、淡路田治郎「向性検査実施指針」(改訂版)雇用問題研究会、昭和二十四年

五、Guilford, J. P., An examination of a typical test of introversion-extroversion by means of the method of similar reactions. J. soc. Psychol., 1933 Vol. IV. No.4, 430—443.

六、Thurstone, L. L., Theory of attitude measurement. Psychol. Rev., 1929, 36, 222—241

古賀行義「競技に対する態度の測定」心理学研究 Vol. 9 No. 5, 6, 211—235

佐野勝男「青年学生の文学に対する態度の測定」心理学研究 Vol. 20, No.3, 27—32

本研究は財団法人精神医学研究所心理部に於てなされたものであり、面倒な集計を一手に引受けてくれた星満智子氏に御礼申上げたい。又被験者の御世話を頂いた林銑藏助教授、日本女子大児玉省教授、東京女子大前田嘉明助教授、森敏吉講師、津田塾大学肥田野直助教授、にも御礼申上げたい。

いろいろと御教えを賜った横山松三郎教授には心から御礼申上げる次第である。

向性検査に於ける「はい」「いいえ」の示す向性度についての一研究

E	E	E	I	E	E	I	E	E	E	E	I	E	I	信賴度	理想
27	32	33	34	35	39	40	42	43	44	45	46	47	48	P	%
15	19	6	8	27	12	31	10	23	17	13	22	9	26	.73	97
20	36	15	10	44	20	46	18	36	27	19	29	28	36	.84	46
24	32	13	13	50	27	56	15	43	27	23	32	21	41	.88	44
16	32	13	6	40	15	49	17	31	20	12	29	19	42	.88	82
16	19	6	4	21	12	23	5	23	18	15	12	16	15	.78	1
21	34	13	9	37	16	44	14	34	24	21	26	24	27	.82	46
18	30	15	11	41	22	49	15	37	21	14	29	17	38	.87	38
18	37	16	12	39	24	50	12	38	24	18	25	23	31	.84	4
17	23	5	10	36	13	43	12	31	23	15	20	16	30	.83	96
22	22	10	5	29	15	33	11	28	20	16	20	16	26	.91	15
12	19	8	4	19	8	21	11	14	13	8	14	10	17	.76	4
30	43	15	11	61	27	72	22	54	41	27	38	28	49	.94	94
11	26	12	13	34	15	36	9	20	14	10	34	14	36	.85	43
33	42	12	15	54	30	63	19	51	36	28	35	29	42	.93	52
7	15	4	9	18	13	22	6	18	13	9	14	11	13	.72	5
23	36	14	10	51	24	58	17	44	24	14	36	10	46	.89	74
40	22	5	4	31	15	33	10	28	24	21	12	19	14	.80	4
	65	18	12	40	26	48	21	37	24	22	23	28	27	.89	11
		21	4	14	4	14	7	9	5	8	10	10	11	.63	2
			20	13	7	17	6	12	5	9	8	8	11	.50	47
				82	26	66	17	50	35	24	35	27	42	.85	47
					39	33	9	31	18	16	10	17	18	.74	9
						95	21	62	39	28	39	32	52	.88	74
							31	17	9	11	6	12	10	.58	10
								74	35	26	22	35	35	.86	6
									48	20	18	19	20	.88	31
										37	11	22	10	.88	7
											51	7	33	.86	92
												46	17	.72	10
													66	.88	93

附表I 男子同時選択表 (「はい」の部) 121名

附

表

	I	E	I	I	E	E	I	I	E	E	E	E	I	E	I	I
	2	3	4	5	6	7	11	12	14	15	16	17	20	22	24	26
2	42	14	29	27	9	22	20	19	20	15	11	25	20	32	13	26
3		71	37	33	18	32	33	27	29	24	19	52	19	44	14	42
4			73	36	17	34	39	47	26	31	16	48	35	49	22	45
5				72	8	31	32	30	29	20	16	46	33	39	9	42
6					29	18	11	16	14	16	8	23	13	22	7	13
7						65	23	28	28	17	11	44	24	41	10	33
11							61	37	19	25	16	43	31	45	18	50
12								61	15	26	16	39	32	40	19	40
14									57	15	8	47	18	32	5	28
15										45	18	34	24	32	11	30
16											28	20	13	22	6	21
17												89	33	57	14	59
20													53	37	15	36
22														79	20	53
24															28	18
26																76
27																
32																
33																
34																
35																
39																
40																
42																
43																
44																
45																
46																
47																
48																

														信賴度理想	
27	32	33	34	35	39	40	42	43	44	45	46	47	48	P	%
39	25	50	54	18	37	7	45	19	37	42	38	26	22	.82	1
23	12	32	24	14	23	3	26	12	22	21	18	15	13	.73	50
21	10	29	30	11	25	2	26	12	18	25	21	16	12	.78	53
19	12	28	22	7	17	5	22	6	15	17	18	13	13	.71	11
51	32	55	53	23	50	8	47	30	46	51	31	38	20	.95	97
29	25	38	32	12	31	6	32	16	23	31	21	25	11	.82	53
26	18	41	36	13	25	7	31	14	19	22	25	16	18	.84	56
32	24	44	40	11	33	7	33	17	26	32	23	27	18	.82	94
26	13	25	32	14	23	8	26	13	18	22	18	16	15	.76	3
48	25	49	43	19	38	4	47	19	36	40	31	26	25	.94	82
53	35	68	65	25	48	9	59	23	42	48	43	34	26	.95	94
14	8	16	13	7	11	4	14	5	14	11	12	8	10	.73	5
22	15	35	36	16	21	3	26	7	18	23	26	13	16	.82	50
24	17	22	26	8	25	5	24	13	17	20	14	16	7	.81	46
51	30	62	66	22	52	9	58	24	43	49	40	37	21	.89	94
16	12	30	20	11	19	4	19	5	10	9	23	10	15	.66	23
71	27	52	46	21	47	7	53	28	41	47	28	41	16	.88	95
	42	38	33	12	32	5	34	14	20	31	19	25	10	.77	88
		91	65	27	50	10	62	24	45	54	45	41	25	.93	95
			89	21	48	11	56	26	37	51	41	36	24	.83	51
				33	18	1	21	10	15	15	20	13	7	.74	50
					69	8	46	25	36	47	24	33	18	.85	90
						13	8	3	3	6	7	6	6	.65	22
							78	28	36	47	31	38	18	.76	89
								36	13	26	6	31	7	.79	93
									58	43	23	31	13	.83	64
										69	20	42	14	.90	91
											57	11	24	.88	7
												53	11	.83	87
													37	.88	5

附表Ⅱ 男子同時選択表 (「いゝえ」の部) 121名

附
表

	2	3	4	5	6	7	11	12	14	15	16	17	20	22	24	26
2	68	12	28	22	41	29	28	28	28	40	49	9	27	19	50	18
3		39	9	7	29	15	13	13	12	26	29	11	14	12		11
4			38	11	23	14	17	21	11	26	27	7	20	9	31	13
5				36	16	11	20	17	10	19	28	8	17	7	23	19
6					76	38	20	33	29	46	54	16	25	24	50	15
7						46	11	18	18	24	30	8	15	14	28	10
11							48	31	11	29	37	7	26	15	37	25
12								52	8	32	40	5	23	16	45	18
14									42	20	25	13	9	8	21	7
15										68	57	12	29	20	49	22
16											89	15	34	29	60	30
17												23	5	3	7	8
20													46	11	32	19
22														32	28	10
24															85	25
26																35
27																
32																
33																
34																
35																
39																
40																
42																
43																
44																
45																
46																
47																
48																

														信賴度	理想
27	32	33	34	35	39	40	42	43	44	45	46	47	48	P	%
6	19	7	6	23	7	18	2	10	14	6	18	8	21	.75	96
36	58	8	13	63	25	59	30	53	43	27	28	40	43	.87	46
22	44	14	16	50	29	50	15	46	37	26	34	31	47	.84	48
7	23	14	9	39	11	39	12	19	11	10	32	15	37	.81	53
18	18	6	4	19	12	18	7	21	20	16	6	16	12	.75	1
38	47	10	10	58	25	57	26	47	43	27	30	35	42	.82	49
13	33	8	11	41	12	43	12	20	17	15	33	14	33	.88	23
20	39	13	11	39	20	37	16	31	20	13	22	25	33	.77	1
29	47	12	17	62	28	60	22	61	48	31	35	41	51	.90	98
28	42	8	10	53	19	41	20	36	34	26	25	31	32	.90	17
13	20	10	5	34	15	31	13	15	17	13	23	11	16	.79	4
38	58	12	13	67	35	67	33	59	49	32	34	41	51	.87	93
8	17	6	9	22	10	23	8	9	9	6	20	5	23	.76	14
29	62	12	14	64	35	72	30	60	47	28	35	38	51	.93	42
8	17	3	8	18	9	18	5	17	14	9	7	15	17	.69	1
16	37	11	12	49	21	53	17	29	24	17	40	20	40	.85	63
52	35	7	2	41	19	35	23	34	30	22	13	25	20	.75	1
	91	16	15	60	38	56	29	55	43	32	28	35	41	.89	4
		21	6	11	9	12	4	12	4	7	6	10	10	.74	2
			26	9	8	14	3	14	10	7	11	9	16	.76	32
				106	30	70	26	52	46	32	43	42	41	.89	43
					48	26	20	33	23	18	14	22	24	.72	4
						104	30	57	46	31	43	39	55	.92	66
							42	27	23	16	13	20	15	.74	2
								88	46	33	12	50	39	.90	3
									74	27	23	35	34	.89	35
										46	6	29	20	.97	7
											62	7	40	.81	96
												61	30	.79	13
													75	.92	89

附表Ⅲ 女子同時選択表 (「はい」の部) 161 名

附
表

	2	3	4	5	6	7	11	12	14	15	16	17	20	22	24	26
2	33	6	27	14	5	11	15	14	14	14	7	13	10	19	10	20
3		85	37	24	18	51	28	27	54	41	20	67	17	49	10	35
4			82	27	13	37	29	36	48	36	17	46	14	45	17	37
5				55	4	23	31	17	33	17	13	32	18	34	6	35
6					28	18	7	13	18	13	9	20	5	18	3	12
7						84	23	28	54	36	17	61	14	52	11	37
11							58	23	30	27	17	31	21	37	12	43
12								57	24	30	16	28	15	36	13	29
14									96	40	19	77	14	60	13	48
15										68	24	44	17	43	11	29
16											38	21	12	24	6	23
17												107	22	69	11	50
20													31	24	3	25
22														99	17	49
24															27	12
26																23
27																
32																
33																
34																
35																
39																
40																
42																
43																
44																
45																
46																
47																
48																

														信賴度	理想
27	32	33	34	35	39	40	42	43	44	45	46	47	48	P	%
53	37	81	78	28	56	19	60	29	36	56	58	30	43	.74	0
41	25	39	38	15	35	14	44	28	32	35	20	29	20	.69	48
29	18	35	38	9	30	6	27	15	21	32	23	16	24	.77	42
36	20	62	64	27	43	20	54	22	26	40	49	24	39	.83	32
79	45	82	74	27	72	24	80	51	48	73	37	49	34	.91	95
45	26	45	42	20	39	15	44	26	26	42	22	28	19	.79	46
43	32	65	64	23	52	25	52	21	22	44	43	23	30	.81	63
54	40	67	67	24	58	25	61	31	31	51	39	37	30	.77	95
18	8	24	27	4	20	3	25	14	16	24	18	17	14	.73	0
55	31	55	56	28	46	12	52	25	30	49	32	25	24	.81	70
68	41	93	80	33	68	29	83	41	40	67	56	40	39	.89	91
31	14	29	27	9	31	10	35	21	20	26	17	22	9	.81	2
61	37	85	82	31	62	28	68	35	33	56	60	33	43	.87	68
27	23	30	32	13	30	17	35	22	18	28	21	18	14	.82	34
75	47	97	100	33	73	29	86	49	55	78	58	51	48	.92	95
29	22	50	48	15	37	20	41	17	11	32	37	15	25	.82	21
94	43	75	68	31	64	22	78	44	47	69	37	45	29	.88	95
	57	51	42	16	47	14	46	34	25	41	20	32	17	.82	88
		123	94	35	76	27	85	49	43	75	55	50	41	.93	94
			120	28	73	24	80	41	44	70	63	43	47	.90	59
				42	22	14	28	12	18	26	22	13	14	.84	50
					95	17	78	44	41	64	39	45	29	.83	91
						37	28	16	12	19	20	15	12	.77	25
							105	48	47	74	47	49	33	.92	94
								63	34	44	10	41	16	.78	95
									63	44	26	35	25	.82	50
										98	28	46	31	.92	89
											71	11	34	.83	1
												61	20	.77	81
													57	.74	5

附表Ⅳ 女子同時選択表 (「いゝえ」の部) 161名

附
表

	2	3	4	5	6	7	11	12	14	15	16	17	20	22	24	26
2	105	26	34	63	61	30	49	53	23	45	69	18	74	26	83	42
3		51	11	21	41	26	18	25	12	29	34	24	29	15	36	13
4			48	22	30	16	22	32	7	22	31	5	28	8	39	19
5				88	41	23	46	40	24	31	59	21	64	21	64	36
6					101	45	44	57	21	49	77	29	66	32	77	30
7						57	21	29	16	32	36	19	35	18	41	18
11							79	50	16	32	56	14	63	24	67	45
12								81	10	38	60	12	61	27	73	35
14									37	6	17	12	20	9	24	13
15										70	55	18	46	21	55	27
16											111	25	82	32	87	48
17												40	22	15	24	12
20													108	35	82	49
22														45	35	19
24															125	51
26																59
27																
32																
33																
34																
35																
39																
40																
42																
43																
44																
45																
46																
47																
48																